

学術情報流通システム論

Scholarly Communication Studies

2 学期 木曜日 7・8時限 講義室：東京サテライト					
担当教員	松林麻実子	研究室	111	オフィス7-	金4限
科目の概要	学術情報流通システムの構成、機能、特徴などを、社会的側面と技術的側面の双方から概観する。また、学術情報の生産者かつ消費者として、このシステムを支える研究者の行動や認識に基づき、種々の学術情報流通システムの評価を試みる。				
授業予定	教科書を輪読し、学術情報流通に関する基礎的な事柄を整理した後に、同領域における最新動向をチェックする。学術情報流通に関する最新動向（特にオープンアクセスへの対応や機関リポジトリ関連の話題）は英語で書かれたニュースやレポートにおいて報告されることが多いため、最新動向のチェックには英文献の読解・紹介も含まれる。				
達成目標	<p>全員に関して</p> <p>学術情報流通の根本にある発想を理解するとともに、最新動向を知る</p> <p>現職の大学図書館員の方々にに関して</p> <p>日常的に従事する業務や現場の事情を離れて、学術情報流通界を俯瞰できるようになる</p> <p>研究者になろうとしている方々にに関して</p> <p>研究者の行う学術コミュニケーションにはどのような要素が関わるのかを知る</p>				
評価の方法	授業内での口頭発表および配布資料を評価の対象とします。				
教科書または参考書	教科書：倉田敬子．学術情報流通とオープンアクセス．勁草書房，2007． 参考文献については適宜紹介します。				
テレビ会議システムの利用	無				
その他	<p>本講義は、春日キャンパス・東京サテライトでの隔年開講を予定しています。今年度は東京サテライトのみでの開講となりますので、ご了承ください。ただし、何らかの事情で決められた年度に受講することができない方に関しては相談に応じますので、担当教員までご連絡ください。</p> <p>授業内容は受講生と相談の上で正式決定しますので、初回の授業には必ず出席してください。</p>				